

論文審査の結果の要旨

申請者氏名 ルキタワティ アングラエニ

現代のインドネシア農村部においては、各種の制度金融やマイクロ・ファイナンスの導入の試みにもかかわらず、依然としてインフォーマル・クレジットへの依存度が高い。この論文では、インドネシアの2つの遠隔農村を対象地域とし、インフォーマル・クレジットにおいて社会的ネットワークが果たしている機能に関して分析を行なっている。

第1の地域であるスマトラ島リアウ州海岸・島嶼部の農村は、河川交通に依存する交通の不便な地域である。ココナッツが主たる農産物であり、ココナッツ農民と中国人商人とのあいだでの二者間取引関係が発達している。この地域の104戸の農家聞き取り調査を分析した結果、次のような結果がえられた。

- 1) 地域におけるココナッツ市場は寡占的であり、農民と中国人商人とのあいだには放射線状の垂直的なネットワークが形成されている。中国人商人はココナッツ加工多国籍企業から資金を前借して、ココナッツ取引を行なっている。
- 2) 農民と中国人商人との間のココナッツ取引は、後者による金融によって強化されている。ココナッツの端境期に中国人商人は掛売りで農民に日用品を販売し、収穫期に現物(ココナッツ)で代金を回収している。その際、ココナッツ代金は地域相場よりも低めに設定されるが、金利に換算をすると、地域の金利相場を下回っている。
- 3) 非農業部門の就業機会の情報入手に関しては、地域農民同士の水平的なネットワークが重要な役割を果たしている。非農業部門の所得が多い農家ほど、中国人商人への金融依存度が小さい傾向がある。
- 4) 貸付資金量の制約により、中国人商人は、戸主が若く、耕地面積が広く、そして定期的に非農業所得を得ている農民に優先的に金融(掛売り)を行なっている。定期的な非農業所得がなくて中国人商人の掛売りに依存せざるを得ない農民が、ぎゃくに信用制限を受けていることがわかった。

第2の地域である西ジャワ山間地域の農村もまた、外部への交通アクセスの貧弱な地域である。ただし、地域コミュニティのネットワークが発達しており、しかもこの10年のあいだで食品包装用のバナナ葉生産が急拡大して商品経済化が急速に進展したために、インフォーマル・クレジットが急速に拡充している。74戸農家への聞き取り調査をもとにして、この地域のインフォーマル・クレジットとして重要な役割を果たしている2つのタイプの自助的グループ(self-help group)に対する参加・不参加を規定している要因および信用制限の要因を分析した。

- 1) 日本の無尽講に相当する自助的グループおよび信用組合類似の自助的グループとも

に、公務員であること、高い学歴を有することおよび安定的な所得をえていることが、これら組織への参加の程度を高めていることが確認された。

- 2) 前者の組織においては、債務不履行に対して社会的制裁によって応える慣習があるために、地域の社会活動に対して活発な農民ほどそれに参加することを自制する傾向があることが認められた。
- 3) 後者の組織においては、参加者の家族に重病人がいて資金需要があるにもかかわらず、実際には資金の借入が制約される傾向があることが認められた。他方では、理事者の家族や友人に優先的に貸し出しを行なって不良債権化するという経営上の問題も現れている。

最後に、2つの地域の分析結果をふまえて、非農業所得の充実による農家所得の安定化、および金融組織の情報公開と運営の民主化という2点が、遠隔地における農村金融に対する政策的なインプリケーションとして提示されている。

以上、本研究においては、インドネシアの2つの遠隔農村地域を分析対象として、インフォーマル・クレジットへの参加および信用制限の有無を条件付けている社会的ネットワークの機能について明らかにした。この分析成果は、学術上、応用上資するところが少なくない。よって審査委員一同は、本論文が博士（農学）の学位論文として価値あるものと認めた。